

ハイチでは、昨年末から発生していた大規模な政治への抗議行動の影響が今年に入っても続き、2月と6月には数週間にわたる大規模で暴力的な抗議行動で、官公庁、学校、商店などあらゆる機能が麻痺する事態が起きました。政治的混乱が社会と経済に大きな打撃を与える状況が続いています。

医療センターも、暴動時は危険なため閉鎖し、状況をみて深刻な病気の患者から受け入れました。4月に厚生省が行ったジフテリアの予防キャンペーンは暴動の影響で1日限りとなりましたが、25人の子どもたちが1回の接種を受けました。また、月に1回子どもたちの為に乾燥肉と米のバックを配布し、HIVや梅毒、ヘルペスなどの性感染症予防の為に若者にコンドームを配布しました。2～6月の患者数は533名、検査は437回実施しています。

職業訓練校の建設状況は、コンクリートの屋根枠を補強するためにコンクリートの梁を設置し終えて、窓とドアを取り付けるところです。国内で発生している暴動や不安から、人々は働きに出てくるのが難しく、資材の調達も困難なため、建設は容易ではありません。

それでもハイチの状況改善のため、人々のために活動を続けるセンチルさんとハイチへ、皆さまの応援をどうぞよろしくお願いいたします。

今年も8月に開催されるビジョン心理学インターナショナルトレーニングにセンチルさんをお招きする予定です。活動の様子やハイチの状況、また職業訓練校建設の現状についても語ってくれると思います。センチルさんとぜひ交流し、仲良くなってください。



屋根の工事が完了しました！



乾燥肉と米のバックを配布



体重を測っている赤ちゃん

被災者支援プログラムのご案内

こころのビタミン研究所では、会員非会員を問わず、東日本大震災や熊本地震、西日本豪雨など国内の自然災害で被災された方や身近な方を亡くされた方、被災地でのボランティア活動をされた方を対象に、こころの癒しを目的とするビジョン心理学セミナーに無料または半額でご参加いただける「被災者支援プログラム」を実施しています。ご友人やお知り合いにぜひご紹介下さい。ご希望の方は事務局までお気軽にご連絡下さい。

仙台 日時:2019年10月20日(日) 10時～18時 会場:ベルエア会館

宮城県仙台市青葉区一番町1丁目4-8 JR仙台駅徒歩12分

熊本 日時:2019年9月21日(土) 10時～18時 会場:ホテルルートイン熊本駅前

熊本県熊本市西区春日1-14-19 JR熊本駅徒歩3分



こころのビタミン研究所の活動にご支援をお願いいたします！

【振込先】 郵便局:ゆうちょ銀行 記号10100 番号77011271
銀行口座:三井住友銀行 三田通支店 普通7852939
【口座名(郵便局・銀行共)】 特定非営利活動法人こころのビタミン研究所



〒108-0073 東京都港区三田3-1-5 第一奈半利川ビル3F
TEL:03-5765-1956 FAX:03-5765-1961
E-mail:info@cocoro-v.org
URL:http://www.cocoro-v.org
ブログ:http://ameblo.jp/cocoro-v
Facebook:認定NPO法人こころのビタミン研究所

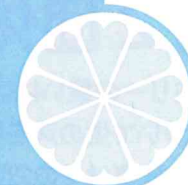
ビタミンニュース NO.25 令和元年7月号
発行日/2019年7月31日 発行/認定NPO法人 こころのビタミン研究所

■平成30年度 収支報告 (平成30年4月1日～平成31年3月31日 単位:円)			
収入の部		支出の部	
会費収入	659,000	勉強会事業	101,397
勉強会事業	36,000	相談事業	155,484
相談事業	223,328	海外支援事業	2,052,432
海外支援事業	27,324	ハイチ	11,556,703
ハイチ	108,750	東日本大震災支援	343,030
東日本大震災支援	20,500	熊本地震支援	254,400
熊本地震支援	10,000	自然災害支援事業	50,600
自然災害支援事業	12,000	子ども支援	1,219,534
子ども支援	2,330	あしなが育英会へ寄付	180,000
寄付金	14,122,199	子ども支援	1,219,534
		喪失回復プログラム	206,280
		会報及び出版物発行	212,274
受取利息	156	管理費	3,571,694
当期収入	15,221,587	当期支出	19,903,828
前期繰越金	16,818,867	次期繰越金	12,136,626
合計	32,040,454	合計	32,040,454

平成30年度通常総会が6月3日に開催され、平成30年度決算報告及び平成31年度事業計画は満場一致で承認されました。

Vitamin News

ビタミンニュース NO.25 令和元年7月号



『ハートフルファミリーの集い』開催しました

4月13日(土)ビジョンセンター田町でハートフルファミリーの集いを開催、活動報告と日頃の感謝を伝えました。

今回は『ハイチを知ろう!』をテーマに、フォトジャーナリストの佐藤文則さん、『ハイチの会セスラ』代表の高岡美智子さんをゲストにお招きし、職業訓練校の建設が進むハイチについて68名の参加者と一緒に楽しく学びました。

『ハイチを知ろう!』の冒頭、祢津都子理事はハイチ支援の経緯やセンチルさん(IAHイニシティブ・アゲインスト・ハンガー代表)との出会いについて話しました。

祢津理事は、ご自身が主催していた世界の飢餓を終わらせるための若者の国際会議『第2回グローバルユースカンファレンス』が1995年NYで開催された際、ハイチから参加していたセンチルさんに出会い、「途上国にもこういう青年がいるんだと非常に心を動かされた」と話しました。

当時、大学を出て国営ラジオ局で働く傍らスラムで食料配布

等の活動をしていたセンチルさんはその会議で、教育を受けた若者が皆国外に出てしまい自国が良くならない、自分はハイチにとどまりハイチをよくする為に貢献したいと話していた、祢津さんは「今回の職業訓練センターの設立で、ハイチで職を得て家族を育て、自国に留まってハイチをよくするために貢献する人たちを育てたいと言っていた、彼の23年越しの想いが達成しようとしている。私たちも心から応援したい」と話しました。

祢津都子理事



佐藤文則さん



佐藤さんのハイチ関連の著書



ハイチの会セスラからハイチの絵画贈呈



ハイチのアート作品、ハイチコーヒーなども並びました

ゲストの佐藤文則さんは、フォトジャーナリストとして1988年からハイチを取材されているハイチに精通した方です。渡航の際にセンチルの医療保健センターを何度も視察して下さっていて、センターの変遷とともに、ハイチの状況や歴史的背景について佐藤さんから学びました。

ハイチは1804年に奴隷とされていた人々が蜂起して独立した世界でも唯一の国で、それが国民の一つの誇りですが、20世紀から現在までは米国の影響を強く受けています。ハイチの通貨グールドの価値はここ30年で1/10以下になり、食料も建築資材も全て輸入に頼っている状況で物価は非常に高く、医療保健センター建設時も容易でなかったことが伺えます。ハイチではまず大工さんを雇い、建築資材は自分で調達して建ててもらうやり方で、「時間はかかるがハイチの実情に合ったやり方」と佐藤さんは話していました。

治安悪化やハイチ地震等の影響で医療保健センターは移設を繰り返しながらも、運営を継続させています。支援して下さる皆さまに心より感謝申し上げます。

ゲストの高岡美智子さんは、昨年末医療保健センターを視察して下さった際の報告を写真とともに伝え、「ハイチの人に本当に必要な医療活動を、ずっと続けてこられたセンチルさんは偉いと感じた」と話しました。ハイチでは政情不安定で治安の問題があり、インフラも整っていない中、「自分の安全は自分で守らなくてはならず、この国で生きることは本当に大変で、(支援先のハイチを)日本の常識で考えてはいけなかった」と話していました。

モーリヤンク地区のセスラ校では、教室や保健室を含めた校舎の建設が急務です。今年は給食の支援を開始したことで子どもたちだけでなく親たちも喜び、現地NGOが組織されて、PTAとして親と先生たちが一緒に学校を作っていく当事者意識が生まれています。これからは現地のNGOを育てたい、自分たちの問題を自分たちで解決するというのを、学校や地域を通じて学び実践してほしいと話していました。

子ども支援



支援先 2 団体を訪問しました

ハートフルファミリーの集いには、子ども支援の2団体の方もご出席下さり、日本の子どもたちをとりまく状況について生の声を聞かせて下り、参加者は大きな関心を持ちました。
4月末、栗原代表理事はその2団体「ほっとすぺーす・つき」と「てらこや新都心」を訪問しました。

ほっとすぺーす・つき

4月22日、栗原弘美代表理事と中野隆一副代表理事が千葉県佐倉市の『ほっとすぺーす・つき』を訪問しました。

当日は週1回のこども食堂の日で、明るい建物内ではボランティアの方々が手際よく準備を進めています。食材は、近所で家庭菜園をしている方が野菜を提供してくれたり、こころのビタミン研究所からの寄付が活用されています。

『子ども食堂つき』は小学生から高齢者まで様々な年代の方が参加します。当日は10人前後の小中学生やその親たちと、一緒にテーブルを囲みました。子ども同士のつながりも感じられ、子どもたちは元気に活き活き過ごしています。一方で、話を聞くと不登校や、見えにくい貧困や虐待などの課題を抱えている場合もあります。

佐倉市は東京駅から1時間程度のごく一般的なベッドタウンで、ここから伺える様子は、全国どこにでもある状況なのかもしれません。この場所が子どもたちにとって必要な居場所であり、効果的に支援を継続していきたいと感じた、今回の訪問でした。



食事の支度をするボランティアさん



てらこや新都心代表大場明美さん(写真左)、てらこや新都心理事長長谷川俊博さん(写真左)、栗原弘美代表理事(写真中央)



子どもたちの楽しい様子が伝わってきます

おやつはおにぎりとおでんとれたイチゴ



てらこや新都心

5月24日、大場明美さんが代表理事をしている一般社団法人「てらこや新都心」を栗原弘美代表理事と訪問しました。大宮駅と浦和駅の間にあるさいたま新都心駅は官公庁の施設もある街で、駅から歩いて7,8分の閑静な住宅地の中にあります。

ご両親の残された明美さんの生家を利用して、地域の居場所作りをしたいという思いから2014年より活動を始めたそうです。子育ては孤独になりがちな状況があり、10年近く前に埼玉で餓死をした親子のニュースに、「その親子は自分だったかもしれない」という思いが活動の原動力になっていると話していました。

子どもラボは地域の人々で子どもたちを見守り育てる「地域での子育て」を目標に、小学生を中心とした居場所作りの活動で、自主性を尊重することにより自己肯定感を育むことを目指して、全員参加型の活動を行っています。利用は登録制にしています。

この日は、翌日が運動会ということで参加していた子供たちは10名程度でしたが、学研の教材を活用してお勉強、スタッフの長谷川さんが優しく丁寧にサポートしてくれます。お勉強の後は、男の子はチャンバラごっこ、女の子は庭で泥だんご作りを楽しんでいました。遊びが終わるとお待ちかねの塩おむすびをみんなで頬ばっていました。和室から縁側を通して直接庭へと出られ、子どもたちが遊びやすい環境だと感じました。

子どもたちの笑顔がとても印象的な訪問でした。これからも応援したいと思います。(理事：鷹野治夫)



子どもたちの作品

海外のパートナーから

バングラデシュから



世界の乳児死亡率(IMR:出生1000に対する1歳未満死亡数)に大きな改善が見えてきています。飢餓を終わらせる為の目標値として、IMR50以下はひとつの目安ですが、1990年バングラデシュ・ハイチともIMR 100から、2016年にはバングラデシュは28、ハイチは51まで下がっています。こころのビタミン研究所が2019年3月までにした海外支援の総額は約9870万円。私たちの支援がこのような変化に貢献していると感じられるのは嬉しいですね。



教育奨学金の支給(ボタ)



2019年教育奨学金を受給するボタの少女達



コンピューターセンターの理論の授業を受ける生徒

バングラデシュの人口約1億6千万人のほとんどは農村地域に住んでおり、貧困、医療施設の欠如、教育、雇用、環境など、様々な課題に直面しています。

これらの課題を機会に変えるため、私たちは栗原弘美先生が教えて下さったトレーニングを活用しています。今では多くの人々、特に女性たちが力づけられ、農業、小規模ビジネス、手工芸などの様々な活動を通して生活を向上させています。彼らの子供たちはハンガー・フリー・ワールド(HFW)が運営するカリガンジの小学校で教育を受け、教育費と医療費を賄うために、約100人の女の子が毎月奨学金を受けています。

小学校には、2019年度210人の学生が入学しました。政府のカリキュラムに加えて絵画や食育などの特別授業もあります。最近、高等クラスでの授業の際にマルチメディアを使用して視覚的に説明したり、プロジェクター、インターネットの映像なども解説に使っています。3つの教室にはインターネットが使用できるスマートTVがあり、授業が効果的になっています。現在学校の運営予算の約半分がHFWの支援であり、残りの半数は現地の学校運営委員会の活動でまかなっています。

コンピューターセンターは、2018年1月から独立した機関として順調に運営されています。今年は250人以上の学生に基本的なコンピューター訓練を提供し、その収入で運営されてい

ます。また、バングラデシュ政府と提携して全学生に修了証を授与しています。将来的には、グラフィックデザイン、写真編集、映画制作などのプログラムを提供したいと考えています。

有機農業センターは、あらゆる面で村民の生活を向上させるための公共施設として作られました。農場では季節ごとの野菜等を生産するとともに、コミュニティの人々にトレーニングを提供しています。これまでに、約1300人(うち600人が女性)が研修を受けました。女性たちはトレーニングと学習を実践して、ミミズ堆肥を生産し、自分たちの土地で使用しつつそれらを売り、カリガンジの農民にとって大きな収入源になっています。彼らの成功はメディアが繰り返し放送したので、今ではバングラデシュ中に知られています。今年の11月か12月頃、その成功を祝う作物フェアを開催する予定です。

啓蒙活動として4月30日に「ビジョン2021」のためのフォーラムを開催し、180人が参加しました。その際、食品省の前大臣 Barrister Amirul Islam氏を主賓として招きました。

愛と喜びとともに、継続的に寛大な貢献をしてくれる私たちのパートナーに感謝しています。皆さんの存在があるので、私たちはやり続けることができます。こころのビタミン研究所のパートナーシップにご協力に感謝致します。愛しています！(HFWバングラデシュ事務局長 アタウル・ラーマン・ミトン)



有機農業センター(カリガンジ)



地元食材を使った栄養食の調理クラス(ボタ)



農村部の女性ミーティング